



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

愛知県支部

日赤あいち

No. 162

2025. 春

- ▶ CLOSE UP
地域課題解決に向けた思いと目指す社会
- ▶ TOPICS
日本赤十字社愛知県支部 令和7年度事業計画と予算の概要
- ▶ Information

5月は
赤十字運動
月間です

皆さまのご協力を
お願いいたします

赤十字は、動いてる！



With You

TEAM
一緒に、救える。SAVE365

日本赤十字社の活動は、皆さまの寄付によって支えられています。



Information
インフォメーション

日本赤十字豊田看護大学 5・8・9月オープンキャンパス開催！

日本赤十字豊田看護大学では、5月24日（土）・8月20日（水）・9月27日（土）にオープンキャンパスを開催します！

5月開催分は受験生を対象として入試対策講座を実施、8月開催分は中高生を対象として赤十字の看護大学の特徴を活かした災害看護学の看護体験や学生の海外研修体験発表、在学生と直接話せる個別相談コーナーやキャンパスツアーがあります。9月開催分では高校生の保護者を対象として、学生サポート制度などの説明とともに、本学の最新の学修教材のデモ見学などを行います。詳細は本学ホームページをご覧ください。皆様のご参加を心よりお待ちしております！



看護体験
（災害看護学・トリアージ体験）の様子▶



◀在学生による
個別相談コーナー

日赤豊田 オープンキャンパス

検索



活動資金 ご協力ありがとうございます

日本赤十字社愛知県支部へ活動資金として
多額のご寄付をいただいた法人様

- ▶ アサヒベーカーリー株式会社 様
- ▶ イーライン株式会社 様
- ▶ 中京プラントサービス株式会社 様
- ▶ 医療法人松本ファミリークリニック 様
- ▶ 株式会社F&Cホールディングス 様
- ▶ 株式会社センテナリー 様
- ▶ 有限会社愛知ハウジング 様

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

日赤あいち

〒461-8561 名古屋市中区白壁 1-50 TEL 052-971-1591（代表）

発行元／日本赤十字社愛知県支部 発行日／令和7年4月1日

「やごと日赤ふれあいひろば2025」を開催します！

5月31日（土）午前10時から午後3時まで、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院を会場に「やごと日赤ふれあいひろば 2025」を開催します。昨年より復活開催したこのイベントは多くの方にお越しいただき、当院や日本赤十字社の活動について体験や展示を通して知っていただきました。今年も、医療機器の展示や体験、健康チェック、お薬作り模擬体験、看護専門学校や看護大学の紹介など、大人から子どもまでお楽しみいただけるコンテンツを多数ご用意しております。ご家族やお友達とお気軽にご来場ください！
※ブース内容は変更される場合があります。



PRESENT

ハートラちゃん
トートバッグ

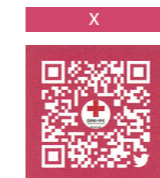
ハートラちゃんのトートバッグを
抽選でプレゼント

5
名様



Mail: aichi-koho@aichi.jrc.or.jp
Fax: 052-971-1590
郵送: 〒461-8561 名古屋市中区白壁 1-50
日本赤十字社愛知県支部「日赤あいちプレゼント」係

応募先
明記事項
①お名前 ②郵便番号・ご住所 ③電話番号
④年齢 ⑤「日赤あいち」の入手先 ⑥ご意見・ご感想など
締切／令和7年6月30日必着

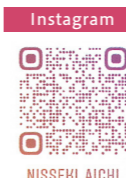


活動の詳細や
最新情報は
ウェブサイトか
SNSへ

日赤あいち

検索

https://www.jrc.or.jp/chapter/aichi/



Instagram
NISSEKI.AICHI



令和7年度事業計画と予算の概要

令和7年度における日本赤十字社愛知県支部の事業計画および一般会計歳入歳出予算についてご報告します。

事業計画の概要（主な事業の抜粋）

◆災害救護活動と救護看護師の養成

大規模地震や豪雨などの災害に対して迅速かつ適切に医療救護活動を行うため、救護員等の養成に努めるとともに、災害救護物資の整備充実に取り組んでまいります。また、近隣の支部と広域支援体制を確立し、行政をはじめ関係機関との連携強化に努めてまいります。さらに、日本赤十字豊田看護大学において、災害救護活動に対応できる幅広い知識と技術を備えた優秀な看護士の養成を行ってまいります。

◆医療事業

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院及び日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院の両病院が災害時には医療救護活動を、平時は地域の中核病院として、救急医療、高度医療などの分野における機能強化を図り、地域のニーズに応じた医療の提供に努めてまいります。

◆血液事業

県内の医療機関からの要請に応え、より安全で良質な血液製剤を安定的に供給するため、400mL献血及び成分献血の一層の推進や、将来の献血を支える若年層への理解促進を図るための献血推進広報を積極的に実施してまいります。

◆救急法や健康生活支援講習等の普及

昨年度に続いて、子ども・子育て世代を支える活動を強化するため、幼児安全法を中心とした講習を積極的に実施するなど、より一層の講習普及に努めてまいります。さらに、普及の担い手となる指導員の増強を図るため、令和7年度については救急法及び幼児安全法の講習指導員養成を実施してまいります。

◆赤十字ボランティアの活動と育成

講習指導員資格を取得した指導員による講習普及や、赤十字防災ボランティア・地区リーダー、赤十字防災セミナー指導者を中心とした防災・減災の知識・技術を普及する活動、子ども食堂をはじめとした子ども・子育て世代を支援するための取り組みを推進してまいります。

◆青少年赤十字の育成と普及

学校教職員及び教育行政機関の理解と協力を得ながら、メンバーの増強、指導者の養成、リーダーシップ・トレーニング・センターの開催、海外青少年赤十字メンバーとの交流、防災教育等各種事業を推進してまいります。また、青少年赤十字加盟校に対し、児童生徒の健全育成に資する資材の整備を進めてまいります。

◆社会福祉事業

各地域における社会課題を把握し、行政、企業、他団体と連携し課題解決に向けて取り組んでまいります。また、外国にルーツのある子どもたちの日本語教育支援や、体験機会の提供など、市町村や関係団体と連携し、地域における多文化共生の取り組みを推進してまいります。

◆国際活動

世界各国・地域の赤十字・赤新月社が実施する災害対策事業や保健医療支援事業等への協力を行ってまいります。また、日本赤十字社の国際医療救援拠点病院に指定されている日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院にて緊急の救援要請に応えられる体制整備に努め、発災直後の緊急支援から中長期にわたる復興支援や開発途上国における保健医療支援に取り組みます。

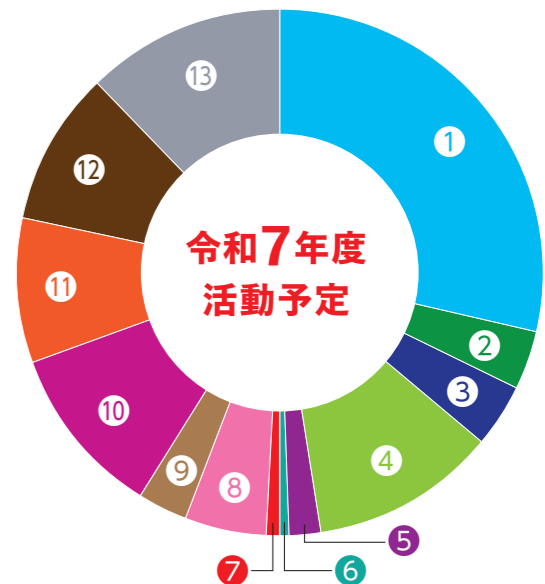
※事業計画の詳細については、日本赤十字社愛知県支部ウェブサイトでご覧いただけます。

一般会計歳入歳出予算の概要

| 歳入 | 予算額 | |
|----------------|----------------|--------|
| 内訳 | | |
| 活動資金収入 | 1,107,000,000円 | 80.2% |
| 委託金・補助金及び交付金収入 | 7,586,000円 | 0.5% |
| 繰入金収入・資産収入・雑収入 | 139,115,000円 | 10.1% |
| 前年度繰越金 | 126,513,000円 | 9.2% |
| 合計 | 1,380,214,000円 | 100.0% |

| 歳出 | 予算額 | |
|--------------------------------|----------------|----------------------|
| 内訳 | | |
| ①災害救護事業と救護看護師の養成に | 395,348,000円 | 28.6% |
| ②救急法や健康生活支援講習などの普及に | 49,955,000円 | 3.6% |
| ③赤十字ボランティアの活動と育成に | 53,781,000円 | 3.9% |
| ④青少年赤十字の育成と普及に | 159,116,000円 | 11.5% |
| ⑤社会福祉事業などに | 28,058,000円 | 2.0% |
| ⑥血液事業の普及啓発に | 5,454,000円 | 0.4% |
| ⑦国際的な活動に | 10,685,000円 | 0.8% |
| ⑧活動資金募集のために | 70,147,000円 | 5.1% |
| ⑨赤十字の普及・広報活動のために | 42,470,000円 | 3.1% |
| ⑩赤十字病院救急医療体制の整備に ^{※1} | 145,027,000円 | 10.5% |
| ⑪市町村における赤十字活動に | 121,400,000円 | 8.8% |
| ⑫全国的な赤十字活動に | 131,550,000円 | 9.5% |
| ⑬支部の運営に | 167,223,000円 | 12.1% |
| 合計 | 1,380,214,000円 | 100.0% ^{※2} |

※1 使途が指定された活動資金による事業を含みます。
※2 端数処理の関係で構成比の合計に差があります。



地域課題解決に向けた思いと 目指す社会

愛知県支部では「子ども・子育て世代の支援」「高齢者健康生活支援」「多文化共生社会実現に向けた事業の推進」の分野で、さまざまな企業と連携しながら地域課題の解決に向けた取り組みを行っています。

今回は「地域課題解決に向けたそれぞれの思いと、これから目指したい社会」をテーマにした、各連携企業と愛知県支部の職員による座談会の様子をお届けします。



1年では到底できない

城田 多文化共生に向け、まずはサッカーを通じたブラジルキッズとの交流の促進に取り組ましましたが、改めて多文化共生社会の実現に向けた課題がたくさんあることを感じました。やはり、お互いのことを理解することや文化などの違いを尊重していくことは、1年では到底できないので継続して多文化共生へ取り組むことが必要だと思います。これからも、ブラジルキッズが抱える悩みや課題に向き合っていけたらなと思っています。

松下 子どもは居場所づくり事業も想像以上に反響があつて「ぜひ続けてほしい」という声をたくさんいただきました。そういった声を聞くと、この取り組みが地域で必要とされているし、続けていくべき事業だと実感した反面、継続するために一緒に活動してくれる協力者を増やしていくことが課題だと感じています。

自分らしく生きていける毎日

福和 現場で「これまであまり健康を気にしていなかったけど、測ってよかったわ」という声を聞くと、少しでも健康を意識してもらうことにつながったのかなと感じることがあります。それでも、この結果がきっかけで健康維持や向上のために具体的な行動をとる人は少ないのかなと。今後は、測定結果とあわせて簡単に試せる健康アドバイスや継続的なフォローができる仕組みなど、もっと健康意識の向上につながる機会にできるようにしたいと思っています。

加藤 骨の測定会に若い方から高齢の方まで幅広い年齢の方が参加してくれる様子を見ると、みなさんそれぞれ健康に対する意識が高いということを感じます。現役でお仕事をされていたり、子育てをされていたり、そういった特若い世代の方で普段なかなか健康診断や検診に行く機会がない方にも、より健康について意識してもらえらるよう開催頻度を増やしていければと思っています。

浜 幅広い世代を対象に体力測定をしてもいい体力の見え方をすることで、健康の維持や増進に繋げてもらうことが目的ですが、みなさんコミュニケーションを取りながら楽しく測定をしており、体力測定の機会が家族や地域の方との絆を深める場にもなっていることを感じました。

福和 私たちの普段の仕事は「万が一に備えて準備してらつて、何かあったときに支援する」ことですが、みなさんの健康意識を高めて将来の病気や介護のリスクを減らし、より長く自分らしく生きていけることに繋がる活動を続けていきたいです。みんながそんな毎日を過ごせるようになっていけたら良いなと思います。

一方通行ではなくて

城田 地域連携活動をするなかで、どちらからの一方通行ではなくお互いが歩み寄っていくことが必要であると改めて思いました。例えば多文化分野であれば、相手に「日本語を教える」ということだけでなく、自分たちも相手の言語を学ぶ」というように、様々な点でお互いに歩み寄り理解しあうことが大切だと感じています。

加賀美

私も「子どもたちのために」「高齢者のために」という自分たちの取り組みが、どうしても一方通行になってしまっているなと感じることがあります。開催するイベントやサロンに来てもらって楽しんでもらうことが目的のになりがちですが、自分たちがその場所で何年も同じことを提供できるわけではありません。事業を通じて色々な方と関わるなかで、実は「地域の課題を解決したい」とか「困っている人たちのために少しだけでも何かしたい」と思っている方が地域に多くいらっしゃることを知りました。私たちができることは、自分たちが一方的にやるのではなく、そういう方たちと共に最初は並走しながら支援をして、最終的には地域の方に担い手として引き継ぐこと。まずは、そういった方々との出会いを大切にしていきたいと思っています。

自分事として捉えられていなかった

松下 新聞やネットを通じて社会課題があると認識していましたが、実際に事業に関わるまではどれも自分事として捉えていませんでした。現場で多くの人と接したことや、地域活動の必要性を感じることができましたし、目の前の課題を自分事として考えるようになりました。私も、自分自身の健康に対する意識は低かったですが、イベントの現場で高齢者の方たちと会話し関わるなかで、今のうちから「予防」や「生活習慣」の見直しをするこの大切さを感じるようになりました。測定会への来場者の多くが65歳以上になりました。だけでなく働き世代にも参加してもらい予防につながるよう、自分たちと同世代の方たちにも参加いただけるような仕掛けが必要だと思っています。また、私たちの取り組みが地域のつながりの場になってもらえればと思います。

当たり前の基準が上がったら

城田 国籍が異なることを気にすることなく、お互いを尊重し合いながら「違うこと」が当たり前になり「国籍に関係なく、みんなが輝いていける社会」になれば良いなと思っています。

加藤 「健康寿命」「子育て」含めて、たくさんのストレスを抱えている社会だと思います。ストレスを抱えることは健康にとっても良くないため、ストレスがない社会を目指していくことがより良い社会につながるのではないかと考えています。「ストレスがないみんなが安心して生活できる社会」を目指していきたいです。

福和 「健康で安心して暮らせる地域づくり」ができるように、まずは測定をきっかけに病気のリスクに気付いてもらう。それが地域の方同士で健康について気にかけるきっかけになってほしいと思っています。

浜 世の中がもっと大きく「健康」を掲げていくことや、各企業が従業員に健康を意識させるような取り組みが増えていき「みんなが健康について意識して考えていける社会」になればいいなと思っています。一見つながりがなさそうな企業同士でも目的や抱える

加賀美

課題は同じで、例えば「健康寿命を延ばす」こと一つとっても、いろんな角度から解決方法を探ることで課題解決に向けた選択肢がたくさんあるんだなということを感じました。「地域の方々がつながり合って、どうしたら生きやすくなるのか、もっと良い社会になるのかを自分で考えてお互いに高め合っていける社会」を目指していけたらと思います。

松下 「サービスを提供する人」「サービスを受ける人」だけでは補えない部分があると思っています。少子高齢化が続き、医療・介護は足りていない、保育園に入りたくても入れない。社会のシステムだけではまかないきれないような課題がたくさんあります。だからこそ、地域のつながりが大切だと感じます。昔のような深い近所付き合いというかたちでなくても、なんとなく顔見知りくらいの関係が少しずつでも増えていくことが「気になる、気付ける関係」「見守り」につながるのではないかと考えています。

現代社会は、人口の減少と高齢化、近所付き合いは希薄になっています。これからは、自分たちのような若い世代が工夫しながら社会を支えていかなければと感じます。例えば、各所で開催している健康チェックや体力測定の場を地域のコミュニティづくりのきっかけにしてもいいかなと、学校以外で子どもたちが楽しく安心して過ごせる居場所が地域のどこにあるのか、どうしたらそんな場所をつくっていくのかとか。地域の誰がどんなことに困っているのか、そんなことを気にかける社会になっていくといいです。

「健康の基準」も「文化や言葉の違い」も、みんなの当たり前の基準が上がったらいなと思いました。



愛知県支部は今後もこうした思いを持つ職員がいる企業・団体と連携して、地域課題解決につながる取り組みを推進していきます。

参加者・携わった地域貢献活動

※所属・職名は取材日時点となります。

明治安田



明治安田生命保険相互会社
名古屋南支社笠寺営業部
営業所長代理
福和 誠司 様

福和



株式会社名古屋グランパスエイト
広報・ホームタウン部
ホームタウングループ
城田 康敬 様

城田

YAGAMI -Human Care Company-



株式会社八神製作所
予防事業部
健康経営 G 兼 健康開発 G
健康経営アドバイザー
浜 真尋 様

浜

一人ひとりのウェルビーイングのために ライフ共済



愛知県共済生活協同組合
名古屋事務所
課長補佐
加藤 萌子 様

加藤

街に、ルネッサンス

UR 都市機構



独立行政法人都市再生機構中部支社
住宅経営部
ウェルフェア推進課
加賀美 愛 様

加賀美



日本赤十字社 愛知県支部
社会活動推進課
主事
松下 陸斗

松下

みんなの健活プロジェクト



名古屋グランパスSDGsアカデミー 在留ブラジルキッズプロジェクト



シニアの体力測定



骨の健康状態測定会



子育てサロンKira☆Kuru



夏休み みんなの空き地プロジェクト



Topics トピックス

活動やイベントを
報告します

地域に根差した取り組みに向けて ～市町村・スポーツチームとの連携～

当支部では、「子ども・子育て世代の支援」、「高齢者健康生活支援」、「多文化共生社会の実現に向けた事業の推進」、「災害時の被災者支援」を重点分野として事業の推進を図っています。

社会ニーズの変化や地域の期待に沿った新たな事業を創出するため、今回新たに犬山市、あま市、三河パイフットボールクラブ株式会社（FC刈谷）、豊橋市、常滑市と連携協定を締結いたしました。

今後も市町村と連携した取り組みを拡充させ、企業・団体とも一層連携を強化することで事業の充実を図り、地域に根差した取り組みを推進してまいります。



多文化共生社会の実現に向けた協働事業 ～将来の希望を広げるためのキャリア教育支援～

知多市との包括連携協定の取り組みの一環として、3月13日（木）市内小中学校で外国人児童生徒の在籍数が最も多い知多市立つしが丘小学校において、子どもたちが様々な職業の社会的役割や自己の生き方について考えるキャリア教育支援を実施しました。

今回は日本赤十字社愛知県支部がパートナーシップ協定を締結する名古屋グランパス通訳スタッフの佐々木トニーユタカさんが学校を訪問し、通訳という職業を紹介するとともに、文化の異なる国で通訳として活躍するまでのエピソードなどを話しながら、児童たちと意見交換を行いました。「通訳の仕事は、言葉だけではなく人の気持ちを伝える仕事」「将来の夢をかなえるための道は一つじゃなくてたくさんあること、好きなものに関わりたい、そのための役に立ちたいという思いを持ち続けることが夢につながるかもしれない」と児童たちへ伝えるトニーさん。外国にルーツのある児童からは「今日の話を聞いて、諦めないことが大切だということを学ぶことができました。夢をかなえるにはどうしたらいいか、もっとたくさん考えてみようと思いました。」と感想を伝えてくれました。

